

3/21 マタイの福音書 26 章 57-68 節、27 章 11-26 節
「キリストの真実な証言」

小池 宏明 牧師

主イエス様はユダヤの過越の祭りに合わせるように、弟子たちと最後の夕食を取り、聖餐式を制定し、ゲツセマネの園に行き祈られた。その時、夜中のゲツセマネで捕らえられたイエス様は、ユダヤの最高法院（サンヘドリン）とローマ帝国の裁判を受けられた。ユダヤ側の裁判は、偽証人を用意して初めからイエスを死刑にすることが決まっている形だけのものではなかった。

***主イエスの真実な証言と私たちの応答**

しかし、主イエス様は、生ける神のお名前に掛けて、真実な証言をされた。たくさん偽証がなされる中で、主は真実を語られた。(26:63-64) どんなに自分の発言や行動が曲解され、脚色されたとしても、自分が何者なのか、そこは曲げられない、決して引くことができない、という態度が強調されている。イエス様は、ご自分が父なる神様から遣わされた神の子、救い主キリストであることを、はっきりと証言された。また、イエス様は、ローマ総督ピラトの前でも、ご自分が永遠の御国の王であることを証言された。

私たちはこのような主イエス様の姿勢から、イエス様を証しする歩みの中で、「不利になっても真実を曲げない」ことを決心したい。主イエス・キリストのように堂々と真実を証言する者でありたい。決してキリストを否むことがないように決意を固めたい。

***主イエスを取り巻く人々と私たち**

このような真実な証言をなされた主イエス・キリストに対して、周りにいた人々の反応を見てみよう。

ユダヤ人指導者たちは、イエスを嫉むあまり殺人の罪を犯した。ピラトの保身のために偽証の罪を犯した。ユダヤの群衆は真実を求めようとしないで殺人の罪に加担した。私たちは、歴史的に見れば確かにその時、その場にはいなかった。しかし、はっきりと聖書は語っている。キリストの十字架は、他の誰でもない、あなたがたの罪のため、私たちの罪のためであると。

たことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり「・・・キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せ従うようにと、あなたがたに模範を残された。キリストは罪を犯しになった。キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私。たちが罪を離れ、義のために生きるためその打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。」

(第一ペテロ 2:21-24)